

令和5年度 東京都立練馬工科高等学校 学校経営報告

1 スクールミッション

本校は「挨拶を大事にして職業人としての適切な行動ができる人材の育成、働くために必要な学力の定着」を教育目標とし、基礎的な工業技術を身に付け、インターンシップや国際理解教育を通して将来を考え、何事にも誠実に取り組み、人権尊重の精神と多文化共生に基づく職業人としての行動ができる人材を育成します。」をスクールミッションとし、Society5.0時代に創造的な活動により新しい価値の創出や都市課題の解決に貢献できる人材を輩出する工科高校として、教育内容の充実や魅力の向上などに向けて計画的に推進する。

2 今年度の主な取組と経営指標

本校のスクールミッションの実現を目指して、令和5年度においては、①工科高等学校としての使命、②エンカレッジ・スクールとしての使命、③豊かな人間性を醸成の三点を重点目標とした。

(1) 工科高等学校としての使命

技術革新やDX化等、国際社会や産業構造の変化がもたらす、ものづくりが迎える新たな局面に向き合う基礎的な技能や技術を持つ職業人の育成を目指し、ものづくりのプロセスをPBLによる課題解決型学習の取組や最先端情報科学分野等の上級学校及び企業との連携教育を着実に推進することを方策として掲げた。このことを受け、産業界のニーズを踏まえた社会的職業人の育成、課題解決型学習の取組、上級学校との学習連携や企業とのインターンシップ等による実学連携の充実を重点テーマに位置付けた。

【学校評価】

質問事項	生徒肯定的回答率	保護者肯定的回答率
ものづくり人材を育成し、東京の産業の発展の支えとなる役割を果たしている	75.6%	77.0%
進路決定に向けた体験授業、キャリアガイダンスの授業は必要である	79.4%	87.3%
企業や大学等と連携した学習を進めることは探究的な学びに役立っている	78.9%	83.9%

学校評価結果から、本校の存在意義は、ものづくり人材の基盤となる技能や技術力を育み社会のニーズに適した職業人を育成することにある。そのために入学時から卒業に至るまでの系統的なキャリア教育を確かなものとし、本校の教職員のみならず、企業、高等教育機関等との連携を一層推進し、探究的・創造的な学びの基盤づくりを見据えて、生徒自身で考える力や学び続けていく力を育成することが必要であり、カリキュラム・マネジメントの視点から、授業計画は不断の見直しを行っていく。

(2) エンカレッジ・スクールとしての使命

エンカレッジ・スクールは、本来、力を発揮できずにいる生徒の基礎的・基本的な学力を身に付けることを目指し、反復的な基礎的学習を中心に体験的学習等により、学ぶ基盤や社会性を醸成することを方策として掲げている。このことを受け、CYODを活用した朝学習の取組や基礎科目学び直し指導の深化、通級等、特別な支援を求める生徒に対する関係諸機関との連携、学習指導法の多角的な研修を重点テーマに位置付けてきた。

【学校評価】

質問事項	生徒肯定的回答率	保護者肯定的回答率
1学年の3教科30分授業は基礎学力の定着に役立っている	79.7%	79.3%
朝学習については基礎学力の定着に役立っている	63.0%	66.7%
スクールカウンセラーやソーシャルワーカーに相談できることを知っている	54.5%	48.3%

学校評価結果から、1学年においては中学校からの学びの継続性を担保するために、都教育委員会の施策校として主要3教科において1年間に限り30分授業を教育課程上編成・実施していることは、生徒・保護者とも好意的に受け止めている。一方、朝学習はCYODの活用による自己学習であり、主体的に学ぶ意欲を持たせる工夫に改善の余地がある。導入当初の状況とは大きく実態が様変わりしており、実施方法の創意工夫を含め検討を進める。また、工科高校におけるエンカレッジ・スクールの役割を正しく発信し、創造的なものづくりや卓越した技術の育成を通して、将来のスペシャリストを輩出する高等学校である点の理解に努めミスマッチを防ぐ。

(3) 豊かな人間性の醸成

他人を思いやる心、生命や人権を尊重する心、自然や美しいものに感動する心、正義感や公正さを重んじる心、勤労観・職業観など、子どもたちに豊かな人間性と社会性を育むことを目指し。国際理解教育の推進及び外国語によるコミュニケーション体験によりグローバルな視点を育み、人間としての在り方・生き方に関する啓発を学校の教育活動全体を通じて行い、その充実を図ることを方策として掲げた。このことを受け、オンラインを活用した国際理解教育の取組、「東京グローバルゲートウェイ」での体験型英語学習の実践、地域の都立学校として工業制作品の寄贈等による地域への貢献を重点テーマに位置付けた。

【学校評価】

質問事項	生徒肯定的回答率	保護者肯定的回答率
インターンシップの実施は効果があり、今後も続ける必要があると思う	85.0%	88.5%
国際交流リーディング校としての取組を知っている	54.5%	48.2%
海外の姉妹校との取組について知っている	64.2%	57.5%

学校評価結果から、1・2学年でのインターンシップは生徒のキャリア形成上有効的な手段である。グループワークを通じて、企業理解、ビジネスマナー、社会人としての心構えなど、社会の一員としての自覚と責任を養う契機として絶好の機会となっており、生徒・保護者の満足度は高い。この実施には、東京都中小企業同友会、東京商工会議所をはじめとする関係諸機関の支援を受け、計画的に実施できるものであり、関係諸機関との協議を深め実施方法の改善を図る。国際理解教育の推進において、専門高校生海外派遣研修や海外姉妹校連携の取組などを実践し、生徒の国際人としての認識を徐々に育む契機となった。

3 次年度以降の課題と対応策

本校の存在意義や社会的役割等示すスクールミッション、教育活動の継続性を担保するためのスクール・ポリシーに基づき、令和5年度学校評価アンケート結果、本校の期待する生徒の姿、社会の要請等を総合的に勘案し、本校の期待する生徒の姿として、「本校への志望動機が明確であり、ものづくりに関する旺盛な探究心と想像力を持つ生徒」

「主体的に学ぶ意欲と規範意識を持ち、高い人間性を育もうとする生徒」「自己の能力を高め、切磋琢磨しながら社会に有為となる生徒」「国際交流に興味・関心を持つ生徒」の4点を掲げる。新たなビジョンを描き、本校はキャリア技術科として、総合的なキャリアの育成に軸足を置き教育活動を展開する。

(1) 都立工科高校唯一のキャリア技術科としての使命の追求

令和5年度に引き続き、Society5.0時代に創造的な活動により新しい価値の創出や都市課題の解決に貢献できる人材を輩出する工科高校の実現に向けて、東京都教育委員会「都立高校の魅力向上に向けた実行プログラム」に基づく教育内容の充実、文部科学省「専門学校と高等学校の有機的連携プログラムの開発・実証」に取り組む。

生徒が学び続ける力、協働する力、考える力、基盤となる技術力を育むため、生徒の個性を生かしながら社会生活への適応力を向上させ、学校設定教科・科目「キャリアデザイン」による体系的なキャリア教育を通じて生徒自らが主体的に進路実現を果たすことのできる取組を着実に推進する。

(2) 多彩な教育課程の編成・実施

専門高校生として必要とされる基本的な学力、社会に開かれた教育課程の編成・実施、探究型の実践的な学びの具現化を目指し、学校設定教科・科目「キャリアガイダンス」の体系化を進路指導部により完成させる。また、観点別学習評価の精度を高める。

知識・技能、思考力、判断力、表現力等、学びに向かう力、人間性の向上を通じて、知・徳・体のバランスの取れた成長により、生徒自身が自立した学習者として生涯にわたり学習する基盤を培えるよう、多彩なチャンネルを用いた教育課程の編成・実施により、社会に求められる学力と技術力を身に付けさせ、国際感覚とともに総合的な人間力を段階的に高める。

(3) 授業力の追求と複合的な支援

教職員の人材育成、校務運営の継承、ものづくり人材の育成は喫緊の課題にある。基礎力診断テストの分析や授業評価の分析による教科横断的な授業改善、確実なCYODの有効的活用による授業の推進など、「授業力」に焦点化した人材開発に取り組む。

教員の指導技術を高める工夫を目指して、OJTによる他、東京都教育研究員、東京教師道場、指導教諭による模範授業、夏季集中講座等により、授業力を中心とした術を段階的に向上させていく。生徒支援では、工科高校資格取得アシスト講座、通級制度、コミュニケーションアシスト講座、職業能力開発センター等の活用を必要に応じてアナウンスし連携を進める。また、募集広報は校務分掌に担当を位置付け、工科高校としての存在価値を正しく発信する。